

## 交付運用報告書

# ドルマネーファンド

追加型投信／海外／その他資産（短期金融資産）

第72期＜決算日2016年6月10日＞  
第73期＜決算日2016年9月12日＞

作成対象期間：2016年3月11日～2016年9月12日

第73期末（2016年9月12日）	
基準価額	6,602円
純資産総額	6,025百万円
第72期～第73期	
騰落率	△9.7%
分配金合計	20円

（注）騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

### <運用報告書に関するお問い合わせ先>

☎コールセンター：0120-506-860

受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで  
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、以下の方法により閲覧、ダウンロードいただけます。なお、運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### <閲覧方法>

右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」等から「運用報告書一覧」⇒当ファンドのファンド名称を選択

### 受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「ドルマネーファンド」は、2016年9月12日に第73期の決算を行いました。

当ファンドは、米国短期金融商品の金利の確保と為替益の獲得をめざして安定運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

DIAMアセットマネジメント株式会社は、2016年10月1日にみずほ投信投資顧問株式会社、新光投信株式会社、みずほ信託銀行株式会社（資産運用部門）と統合し、商号をアセットマネジメントOne株式会社に変更する予定です（関係当局の認可等を前提とします）。

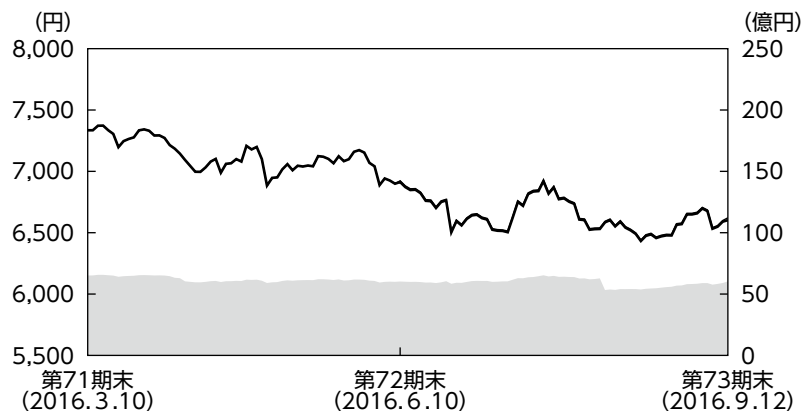
**DIAMアセットマネジメント株式会社**

東京都千代田区丸の内3-3-1

（URL） <http://www.diam.co.jp/>

## 運用経過の説明

### 基準価額等の推移



第72期首： 7,335円  
 第73期末： 6,602円  
 (既払分配金20円)  
 騰落率：  $\Delta 9.7\%$   
 (分配金再投資ベース)

■ 純資産総額 (右軸) — 基準価額 (左軸) - - 分配金再投資基準価額 (左軸)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

### 基準価額の主な変動要因

為替市場において、米国の利上げ観測の後退などを背景に円高ドル安が進行したことがマイナスに寄与し、基準価額は下落しました。

## 1 万口当たりの費用明細

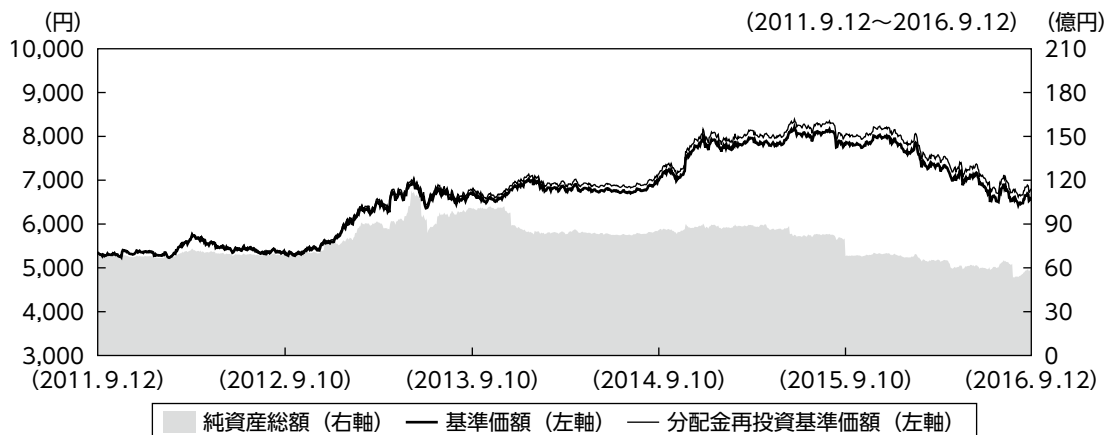
項目	第72期～第73期		項目の概要
	(2016年3月11日 ～2016年9月12日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	36円	0.522%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は6,880円です。
(投信会社)	(15)	(0.220)	投信会社分は、委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(19)	(0.275)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、 口座内でのファンドの管理等の対価
(受託銀行)	( 2)	(0.027)	受託銀行分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行 等の対価
(b) その他費用	0	0.005	(b) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 0)	(0.002)	保管費用は、外国での資産の保管等に要する諸費用
(監査費用)	( 0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	( 0)	(0.000)	その他は、信託事務の諸費用等 (余資運用に対してかかる費用を含む)
合計	36	0.527	

(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## 最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、2011年9月12日の基準価額をもとに指数化したものです。

(注2) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注3) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

	2011年9月12日 期首	2012年9月10日 決算日	2013年9月10日 決算日	2014年9月10日 決算日	2015年9月10日 決算日	2016年9月12日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	5,359	5,319	6,679	7,005	7,825	6,602
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	40	40	40	40	40
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△0.0	26.4	5.5	12.3	△15.2
純資産総額 (百万円)	6,939	6,841	10,031	8,574	6,805	6,025

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指標は定めておりません。

## 投資環境

為替市場では円高ドル安が進行しました。3月のFOMC（米連邦公開市場委員会）で利上げが見送られ、今後の利上げペースの見通しが下方修正されたことで、円高ドル安が進行しました。その後はドルが持ち直す局面もありましたが、5月の雇用統計が低調な結果となり6月の利上げが見送られたことや、英国の国民投票の結果を受けて円高が加速しました。7月中旬に日本の財政政策への期待などから一時的に円安が進行したものの、日銀の追加緩和策が期待を下回る内容となったことなどから再び円高が進行しました。

米国の短期金利はやや低下しました。3月のFOMCでは2016年の年初に起きた金融市場の混乱等を背景に利上げが見送られるとともに、今後の利上げペースの見通しが下方修正されたことで短期金利は低下しました。その後は上昇する局面もありましたが、5月の雇用統計が大幅に悪化したことで6月のFOMCでも利上げが見送られ、更には英国の国民投票の結果も影響し、短期金利は再び低下しました。当作成期末にかけては9月の利上げ期待を背景に短期金利は緩やかに上昇しました。

## ポートフォリオについて

米国短期金融マーケットへの投資を通して、利子等収益の確保と円安ドル高時の為替益の享受により、好リターンの獲得をめざしました。当作成期は、引き続き格付会社からトリプルA（AAA）の格付を取得している米国債を中心とした組入れを実施しました。ドルの余資については、翌日物外貨預金による運用を行いました。

### ○ポートフォリオ構成

資産の内容	組入比率 (%)
ドル建て債券	56.1
ドル預金等	41.6
円資産（コールローン、その他）	2.3
合計	100.0

(注1) 設定解約とドルの送付金とのタイミングのずれにより、円資産がマイナスとなることがあります。

(注2) 組入比率は純資産総額に対する割合です。

## 分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第72期	第73期
	2016年3月11日 ~2016年6月10日	2016年6月11日 ~2016年9月12日
当期分配金（税引前）	10円	10円
対基準価額比率	0.14%	0.15%
当期の収益	-円	-円
当期の収益以外	10	10
翌期繰越分配対象額	3,206	3,196

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

## 今後の運用方針

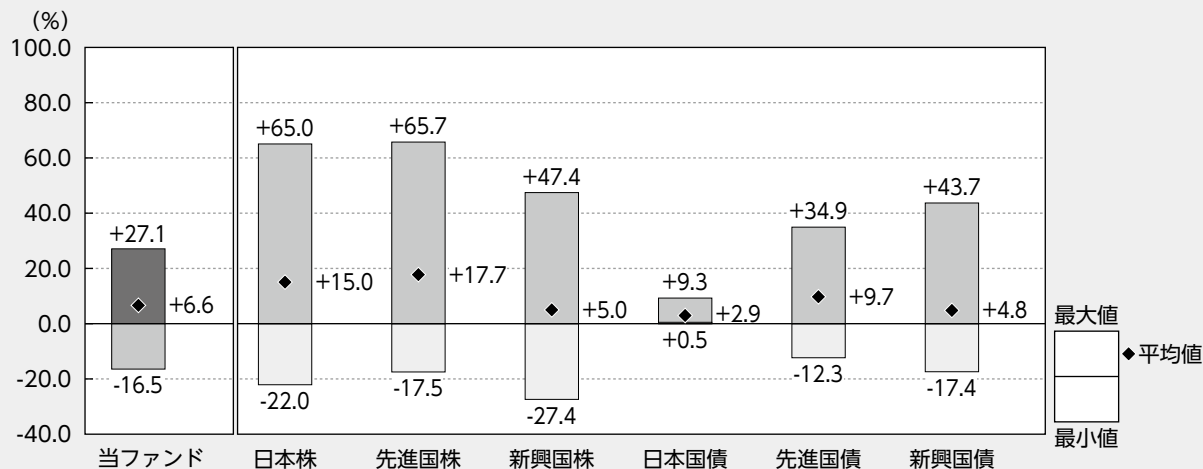
米国では製造業は冴えないものの、個人消費や住宅市況は概ね堅調を維持しています。一方でインフレ圧力は低位にとどまっており、利上げを急ぐ状況ではありません。引き続き日米両国の金融政策の動向が米ドル／円相場の鍵を握りますが、経済状況および金融政策の方向性の違いを背景に緩やかな円安ドル高を予想します。ただし、中国経済の急減速や米国の大統領選挙の行方次第ではリスク回避姿勢が高まり、円高が進行する可能性があります。

債券の運用につきましては、短期国債を中心に組入れを行い、金利水準次第では外貨預金も積極的に活用する方針です。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（短期金融資産）
信託期間	1998年6月19日から無期限です。
運用方針	米国短期金融商品の金利の確保と為替益の獲得をめざして安定運用を行います。
主要投資対象	米ドル建の短期国債、米ドル建の政府機関債、米ドル建のコマーシャル・ペーパーおよび米ドル建の譲渡性預金証書を主要投資対象とします。
運用方法	米国短期金融マーケットへの投資を通して、利子等収益の確保と円安・米ドル高時の為替益の享受により、好リターンの獲得をめざします。 外貨建資産については、為替ヘッジを行いません。
組入制限	外貨建資産への投資には、制限を設けません。
分配方針	決算日（原則として3月、6月、9月および12月の各10日。休業日の場合は翌営業日。）に、原則として利子・配当等収益および有価証券の売買益（評価益を含みます。）等を分配します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2011年9月～2016年8月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとして計算しています。

### \*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (円ベース、配当込み)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (円ベース、配当込み)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。

●「東証株価指数 (TOPIX)」は、株式会社東京証券取引所 (株東京証券取引所) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株東京証券取引所)が有しています。なお、本商品は、(株東京証券取引所)により提供、保証又は販売されるものではなく、(株東京証券取引所)は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

●「MSCIコクサイ・インデックス」「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が公表しているインデックスで、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に属しており、また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

●「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。

●「シティ世界国債インデックス」に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はシティグループ・インデックスLLCに帰属します。

●「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

## 当ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

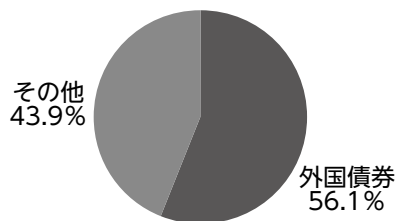
#### ◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
US T BILL 07/20/17	アメリカ・ドル	27.1%
US T BILL 10/13/16	アメリカ・ドル	17.0
US T BILL 02/02/17	アメリカ・ドル	11.9
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
—	—	—
組入銘柄数	3銘柄	

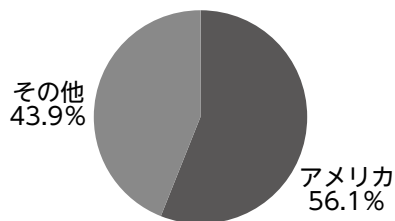
(注1) 比率は第73期末における純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

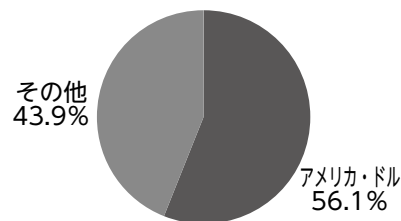
#### ◆資産別配分



#### ◆国別配分



#### ◆通貨別配分



(注1) 比率は第73期末における純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。

(注2) ドル預金および現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

### 純資産等

項目	第72期末	第73期末
	2016年6月10日	2016年9月12日
純資産総額	6,018,764,118円	6,025,874,010円
受益権総口数	8,706,424,325口	9,126,693,231口
1万口当たり基準価額	6,913円	6,602円

(注) 当作成期間（第72期～第73期）中における追加設定元本額は2,920,226,288円、同解約元本額は2,667,792,779円です。